



# 館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 2 月 26 日(水)

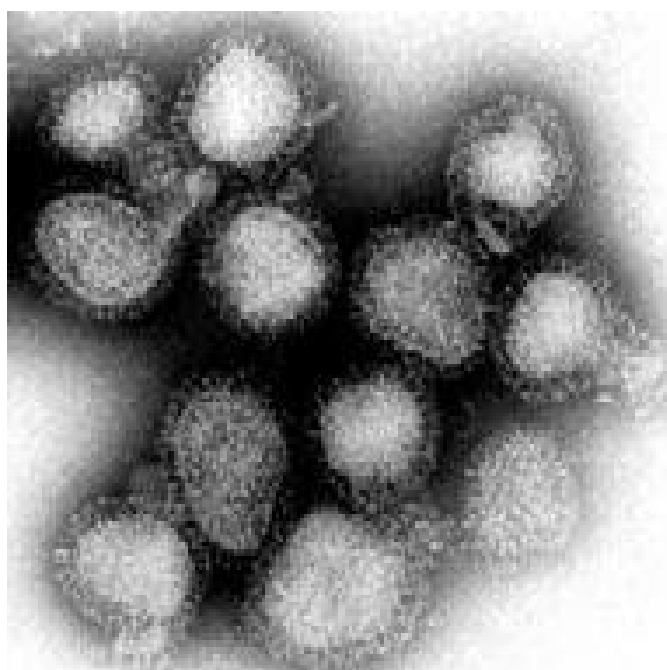
発行 館長 加藤 智 一

## 歯周病とインフルエンザ

2025 年 2 月 19(水)朝日新聞掲載記事

口の中で歯周病の原因になる菌が、インフルエンザウイルスへの感染を促す働きがあることを、日本大学の研究チームが動物の細胞を使った研究で発見しました。

日本大学歯学部の神尾宜昌准教授（感染症学）らは、歯周病の代表的な原因菌が生み出す「タンパク質分解酵素」に着目。A 型ウイルスへの感染に及ぼす影響をイヌの培養細胞を使って調べました。その結果、この酵素によってウイルス表面のタンパク質が切断され、細胞がインフルエンザウイルスに感染しやすい形状に変化することが確認されたということです。また、酸素の働きを阻害する成分を加えると、ウイルス表面のタンパク質が切断されず、感染も抑えられることも確認できたということです。酵素を作れなくした歯周病菌を使った実験でも、同様に感染が抑えられており、研究チームは今後、動物やヒトの体内でも同様のメカニズムが働いているか調べることにしているそうです。



## やるべき事を先延ばしにすると

結論から申し上げます。やるべき事を先のば

しすると、脳は疲弊し、ストレスを増大させることになるのです。やるべき事を先延ばしにするという行為は、頭のメモリー機能を絶えず使うことになるため脳は疲れてしまうのです。

そうならないようにするには、

- ① 5分で終わるものは「その場」です。
- ② 30分で終わるものは「その日」にする。
- ③ 1時間以上かかるものは「小分け」でやる。

時間を正しく使って健康な脳の状態を維持することで、自分だけでなく対人関係も良くなるはずです。

## がん細胞が正常に戻る「分子スイッチ」が発見される

ニューズウィーク日本版より

この画期的な研究成果を発表したのは、韓国・大田にある韓国科学技術院（KAIST）生物学者のチョ・クアンヒョン（Kwang-Hyun Cho）教授らの研究チームです。この研究では、正常細胞が不可逆的ながん細胞へと変化する直前の「臨界点」を捉えることで、この発見に至ったとのこと。

がん細胞の形成過程においても、遺伝的・エピジェネティック（後成遺伝学）な変化が蓄積された結果、ある特定のタイミングで正常細胞ががん細胞へと転換する瞬間が生まれます。チョ教授らのチームは、発がんの過程において、正常細胞は一時的に正常細胞とがん細胞が共存する不安定な状態になる段階があることを突き止めました。そして、システム生物学のアプローチを用いて、この「臨界転換」を解析したところ、がんの進行を制御する遺伝子ネットワークのモデルを構築し、それを基にがん細胞を正常細胞へと逆転させる「分子スイッチ」を特定できたということです。

内容が難しすぎて咀嚼（そしゃく）できません。話題を変えよう！

## ネットで見つけたチョット良い話

ある時、イケメンのお兄さんが、電車で「席どうぞ」と年配の女性に席を譲りました。

すると「まだそんな年じゃないですよっ！」と機嫌を損ねる女性。

そしたらそのイケメン、「ただのレディーファーストですよ、お姉さん」とウィンク。

女性は赤面。

私も赤面。